

情報発信以上の「伝える責任」と「向き合う姿勢」

「医療福祉ジャーナリズム」の授業を通して、臨床検査分野の大学院生として、自分の専門領域と社会の繋がりについて深く考える機会をいただき、誠にありがとうございました。日々研究を進める中で、実際の医療や福祉の現場を目の当たりにすることはまだ少なく、どこか隔たりを感じていました。ところが、ジャーナリズムを通じて現場の姿に触れることで、その現実が身近に感じられるようになりました。

特に、情報を伝えることの難しさと重要性を強く実感しました。知られていないこと、理解されにくいことを、多様な視点や表現で社会に届けることがいかに大切かを考えさせられました。そこには単なる情報発信以上の「伝える責任」と「向き合う姿勢」が求められていると感じています。この授業での学びを踏まえ、私はこれから、医療や福祉の現場の声を受け止めると同時に、まだ知られていない課題を自分の言葉で伝える努力をしていきたいと思います。小さな一歩ですが、社会と人々をつなぎ、「共に生きる社会」に貢献できるよう、主体的に行動していく所存です。

写真やジャーナリズムの力で見過ごされがちな現場のリアルを伝えることの意義は、私自身の研究にも通じる重要な視点だと感じました。臨床検査のデータも単なる数値ではなく、そこに込められた患者さんの声や命の重みを伝える手段であるという認識を深めました。

これからは、専門知識を磨くと同時に、その知識を社会にわかりやすく伝える力を養い、「共に生きる社会にする」ための架け橋となれるよう、積極的に学び続けたいと思います。

国際医療福祉大学大学院 保健医療学専攻 臨床検査学分野 修士課程 1 年

久保田 菜月